

令和3年（2021年）2月23日

天皇陛下の61歳の御誕生日に際しての
紀谷昌彦在シドニー日本国総領事からのメッセージ

天皇陛下の御即位後、2度目となる天皇陛下の御誕生日を迎えるに際して、この豪州シドニーの地から心よりお祝い申し上げます。昨年は豪州における森林火災、そして世界規模の新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの貴い命が犠牲となり、大変痛ましく思います。本年が日本と豪州、そして世界にとって素晴らしい年となるよう、日本政府の一員として、様々な課題に取り組み、努力を重ねていく所存です。

日豪両国は「特別な戦略的パートナー」として、緊密な対話と協力を継続・強化しています。昨年11月にはモリソン首相が菅新総理就任後初めての外国首脳として訪日し、日豪首脳会談を行いました。それに先立つ10月にはペイン外務大臣が訪日して日米豪印外相会合に出席するとともに日豪外相会談を行い、同月さらにレイノルズ国防大臣も訪日して日豪防衛相会談を行いました。

経済面でも、新たな成長の原動力をつくり出す鍵となる「グリーン」や「デジタル」を含め、日豪関係は着実に進展しています。昨年2月の日本商工会議所・東京商工会議所経済ミッションのシドニー訪問後、7月にエアーズNSW州投資大臣、11月にベレジクリアンNSW州首相によるビジネス・ウェビナーがそれぞれ開催され、日本企業はNSW州政府との協力覚書（MOU）を締結するなど、前向きに動いています。北部準州（NT）でも、2018年に操業を開始したイクシスLNGプロジェクトを基盤に経済関係を更に強化すべく、昨年10月にはガナーNT首席大臣、マニソンNT副首席大臣は本官とともに、日本企業が出資する豪州企業の事業予定地を視察するなどの協力を進めています。

文化・交流面では、本年7月から9月にかけて東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。日本政府は、人類が新型コロナウイルスに打ち勝った証（あかし）として、そして、「世界の団結」の象徴として、世界中に「希望」と「勇気」を届ける大会を実現する決意です。日豪ともスポーツ大国であり、これを契機に日本のホストタウンとの交流や日豪学校間のオンライン交流も進展することを期待しています。また、本年3月には東日本大震災から10年を迎え、シドニーでも記念行事が開催されます。震災当時の豪州からの多大なる支援とその後の温かい交流の推進に改めて感謝申し上げます。

豪州は人口あたりの日本語学習者が世界一です。日本の文化や科学技術に対する関心が高く、NSW州やNTの多くの学校でも日本語教師が情熱を持って日本語教育を行っていることを嬉しく思います。また、豪州の在留邦人は約10万人で、米国と中国の在留邦人に続き世界第3位、シドニー大都市圏の在留邦人は約3万5千人で、海外主要都市の在留邦人数では世界第6位です。当地の日本人社会が、多文化主義を掲げる豪州をより豊かなものとし、日豪両国がともに発展する架け橋となるよう、全力で支える考えです。

日豪関係があらゆる面で深化し、日豪両国のみならず世界の平和と繁栄に貢献することを目指して、皆様と一緒に取り組む所存です。本年もよろしくお願ひ申し上げます。